

消防トピックス

奈良の文化を担う消防団と 消防団長の思い

奈良市消防団団長 黒 文雄

【はじめに】

奈良市は、奈良県の北部に位置し、人口 368,429 人（平成 24 年 4 月 1 日現在）大和青垣国定公園、奈良公園、矢田自然公園など美しい自然の中に囲まれ、特に特別天然記念物に指定されている春日山原始林をはじめとします緑の環境に恵まれています。

市域面積 276.84 平方キロメートルで、築 1,300 年を超える木造建築物など、市内には、世界遺産「古都奈良の文化財」をはじめ数多くの歴史的遺産があり、さらに近畿圏における中核市としても発展を続けています。

また、古事記編纂から 1,300 年の記念イベントも開催されており、先人たちが守り伝えてくれた多くの文化財を後世に残すためにも、災害に強いまちづくり人づくりに取り組んでいるところであります。

【奈良市消防団について】

奈良市消防団は、昭和 23 年 4 月に発足以来、現在 1 本部 4 方面隊 22 分団 1,000 名の定数で、平成 21 年 4 月には女性ならではのソフトな対応と感性を活動に取り入れ、消防団活動の充実強化を図るため女性団員で構成する広報指導分団を結成、その愛称を「やまとなでしこ隊」と命名されました。

昨年の全国女性消防団員活性化秋田大会では、応急手当の一連の流れを体操で表現した「やまとなでしこ体操」を披露し、大会参加者全員で体操するといった初の試みで、多くの方々から賞賛のお言葉をいただきました。

さらに、3 月には第 1 回奈良市消防団活性化大会を開催するなど、市民とのコミュニケーションを図り、身近に感じていただける消防団をめざし日々取り組んでいるところであります。



出発前の激励をする黒文雄消防団長



【山焼き行事での取組み】

奈良市消防団は、通常の消防団活動とは少し違った活動を行っています。それは、奈良市の観光行事や地域の伝統行事等の警戒や協力にも携わっていることです。

その中でも特に、新春1月の第4土曜日に開催されています恒例の若草山山焼きは、全国各地から毎年約十数万人もの方々が訪れる奈良の観光行事として全国的に定着しています。

当日は、早朝から気象予測はもとより山麓周辺をパトロールし状況確認をしたうえで、関係機関と開催するかどうか協議されます。

午後4時 若草山山麓に消防団員320人が集合し、出発式で知事・市長・団長よりの激励を受けた後、各分団が背負い水のうと松明を携行し、若

草山を登り、順次各分団に割り当てられた担当区域で待機します。

午後6時15分 冬の夜空に豪快な花火が何百発も打ち上げられ、花火が終わるといよいよ点火になります。普段は火災現場において消火活動を行う団員が消防団柳生ラップ隊の吹鳴合図で、それぞれの持ち場から一斉に枯草に火をつけます。

約33ヘクタール周囲3,800メートルの若草山の裾野から炎の輪が次第に山頂に向かって伸びていきます。

まさに、新春を彩る雄大な炎の祭典となります。

消防団員は、決められた持ち場において点火から火勢が収まり完全消火まで約2時間の活動を終え、完全鎮火を確認しながら下山します。

最終的には、警備本部前にて待機しています団



打ち上げ花火の様子



点火中の消防団員



点火中の消防団員



警戒中の消防団員



各分団終了報告

長に終了報告を行い、分団ごとでの解散となります。

その間、団長は無線で、各分団持ち場の状況や活動内容を把握し、消防団員全員が無事下山するまでは、警備本部にて指揮を執っています。

【団長の思い】

毎年、この日を迎えるまでには、関係機関との調整会議や防火帯等の現地確認など多くの協議を重ねながら進められています。

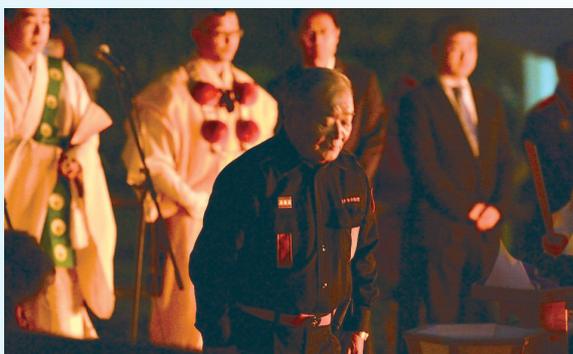
この日に限っては、草地に火をつける点火作業から飛び火警戒・消火作業を担いなど普段の消防団の役割とは違った活動となることから、団長として、安全に事故なく行事が終わることをだれよりも願っています。

当日の朝は、いつもより早く起床し、まず、若草山の山容をみながら周囲の状況や雲の流れ風向等を肌で感じとり、長年培った感覚で、その日の天候や山の燃え方が大方感じ取れます。これも、長年の経験から生まれたものだと思っています。

松明を持った団員が、山の四方から枯草に一斉に火をつけ、炎は瞬く間に広がり、風向きが度々変わることから肌を焼くような熱風が団員を襲うこともあり、真剣な眼差しで火の行方を見守ります。また、若草山南面には春日原始林がありその山裾には多くの文化財建築物が位置していることから細心の注意で作業を行わなければなりません。

ん。行事が成功裏に終了し毎年開催できるのも、このような団員一丸となった苦勞の裏打ちがあったのであります。

今後も、国際文化観光都市奈良を守る消防団員として、このような伝統行事や数多くの文化財を後世に残していくため、その役割の深さや重さを感じております。



現在は、私と息子・孫の3代が消防団員として活動しており、地域防災に対する思いは誰よりも強く、また、このような伝統行事としての団活動も確実に伝えております。

地元ではこの若草山の燃え方で、その年の景気等の良し悪しいい伝えがあることから、皆様の期待通りに行事が終わることを誰よりも願います。

わたしは、古都奈良が大好きです。読者の皆さん、是非一度、若草山焼きをご覧にお越しください。お待ちしております。

【おわりに】

全国にはめずらしい消防団員が持つ特殊性を広くアピールし、また、団員同志はもとより、地域との強い「絆」を築きながら、消防団の活性化にも積極的に取り組むとともに、あらゆる災害に強い組織づくりと、市民の期待に応えられる消防団であり続けるためにも、日々活動に取り組んで参ります。